

水と緑と歴史、そして人を結ぶ 多摩川干潟ネットワーク



多摩川を拠点としたまちづくり

NPO法人多摩川干潟ネットワーク(以降「同会」と略します)は、多摩川流域及び東京湾岸の活動団体、研究・教育機関及び行政等と連携・協働し、多摩川流域リバーミュージアム、多摩川エコミュージアム構想、川崎市多摩川プランを推進しています。

多摩川流域の自然環境保全、地域の歴史文化の伝承、水防及び消防活動の発信と啓発、それらを推進するための施設の管理・運営等を行い、「水と緑と歴史」そして「人」とのネットワークを形成することにより、多摩川を拠点としたまちづくりの推進に寄与することを目的としています。

同会の経緯

同会は、自然環境や地域の歴史に興味のある方や消防団や子ども会の担当者などで作る大師河原干潟館運営委員会が母体となり2008(H20)年12月に発足しました。

その後、2013(H25)年6月からNPO法人多摩川干潟ネットワークとして活動をはじめ、2015(H27)年度、国土交通省関東地方整備局河川協力団体として指定されました。会員は理事を含め30名です。(2018年8月現在)



▲ 佐川麻理子さん

主な活動

7月26日(木)、多摩川の河口近くにある多摩川の防災拠点となる「大師河原水防センター(大師河原干潟館)」を訪れて、佐川麻理子理事長より同会の活動について伺いました。当日は、近隣の子どもたちや保護者方が大勢来館していました。

佐川さんは、「この10年の間で、地域住民がボランティアスタッフとして協力するようになってきたり、子どもたちやその保護者がたくさん相談に来たりするようになった」といいます。

1階の河川情報室にある水槽には、多摩川の河口に住む生き物たちを飼っていて、いつでも観察できるように分かりやすい説明で表示しています。



▲ 河口に住む生き物たち

ホワイトボードには、多摩川で見つけた生き物たちの日付が書いてあり、多くの生き物がいることが分かります。

テーブルの上にはどんぐり、まつぼっくり、クルミ、小枝などの自然素材や、トイレトーパーの芯、ペットボトルキャップなどがあり、来館者が自由にエコクラフトで楽しむことができます。



▲ エコクラフトの材料



▲ 近隣の小学校 秋の干潟観察会

学校や幼稚園・PTAなどから観察会や講習会への依頼が月に20件以上になることもあります。会員の日程を調整しながら、できるだけ要望に応えるようにしています。一日体験を希望する団体もあり、潮見表カレンダーを参考にしながら、自然条件や天候の変化にも応じることのできる計画をたてています。

市民グループとの連携

多摩川で活動している市民グループ、水辺の楽校(だいし・とどろき・かわさき)、NPO法人多摩川エコミュージアムなどの他組織と連携しながら干潟館を運営しています。特に、だいし水辺の楽校は、干潟館を拠点としてハゼ釣り教室や干潟観察会など月1回程度のイベントを開催しており、同会は、協力しながら活動を推進しています。

ひがたかんタイムズ

ひがたかんタイムズは、2008(H20)年11月15日に創刊号を発行しました。創刊号当時には「ひがたのゆかいな仲間たち」をシリーズで掲載していました。2018(H30)年12月で62号(現在、偶数月に発行)を迎えたひがたかんタイムズには、干潟歳時記がシリーズで掲載されています。多摩川の干潟に住む幼魚やカニの仲間や鳥たちの様子が手に取るように分かる解説をしています。また、同会の主催するイベントのお知らせなどを掲載しています。



▲ ひがたかんタイムズ